実践例　およげないりすさん（教科書P.68-71）

	学習活動（主な発問と児童の反応）	指導上の留意点
1	**▶いじめとは何かについて意見を出し合う。** **○いじめとは、どんなことだと思いますか。** ・悪口を言う。　・たたく。　・嫌なことをする。 **○このグラフを見て、気づいたことはありますか。** ・グラフを見ると、低学年ほどいじめが多い。1年生は体が弱いから、いじめられやすいのかな。 ・いじめられたら、嫌な気持ちになる。	・学年ごとのいじめ発生件数のグラフを提示した。 ・学級の実態に配慮しながら、「いじめられたら、どんな気持ちになるかな。」などと追発問をし、本時の学習へ結び付けた。 ・児童の興味・関心が高まるように、教材を読む前は1枚目と最後の挿絵だけを提示し、登場人物の表情から物語の内容を想像させた。
	テーマ　みんなが　なかよくなるには、どんな　考えが　大切でしょう。	
2	**▶「およげないりすさん」を読んで、話し合う。** **①「およげないから、だめ。」と言われて、りすさんは、どんな気持ちになったでしょう。** 〈すっごく悲しい〉 ・いっしょに遊びたかったのに、「だめ。」と言われたから。 ・自分が泳げないから行けないんだ。悲しい。 〈すっごくやりたい〉 ・みんなで遊びたい。	・黒板に挿絵を貼り、始めに登場人物を押さえた。 ・P.69L.1まで教材を朗読し、スマイルメーターを使ってりすの気持ちを考えさせた。りすが、仲間はずれにされて悲しかったことや、本当はいっしょに遊びたいと思っていることを確かめた。 ・個人でスマイルメーターを使う際は、集中して考えられるように音を消すよう指示した。 ・個人で考えた後は、何名か指名して学級全体で意見交流させた。
	②「りすさんは、およげないから、だめ。」と言っていた3匹が、「ごめんね。」「りすさんもいっしょに　しまへ行こうよ。」と言ったのは、どうしてでしょう。 ・りすさんがいないと楽しめなかったから。 ・みんなが集まらないと、わいわいできないから。	・P.70L.8まで教材を朗読し、りす以外の3匹の気持ちを考えさせた。 ・りすがいないことに対する3匹の気持ちを考えさせたかったので、「3匹だけでも遊べるよ。」など、適宜揺さぶりをかけた。
	③みんなで島へ行ったとき、りすさんはどんな気持ちだったでしょう。 〈とてもうれしい〉 ・みんなで遊べてうれしい。 〈すっごくすっきりしている〉 ・連れて行ってくれて、すっきり。 〈すっごく好ましい〉 ・「だめ。」じゃなくて、「いっしょに行こう。」（という3匹の言葉）がいい。 〈すっごく満足している〉 ・独りぼっちじゃない。かめさんが自分のことを考えて、連れて行ってくれた。	・最後まで教材を朗読した後、スマイルメーターを使ってりすの気持ちを考えさせた。 ・気持ちを選ぶのが難しい児童には、挿絵の表情に注目して考えるよう促した。 ・児童にはどうしてその気持ちを選んだのか、理由を説明させた。理由まで答えられない児童がいる場合は、周りに補足説明できる児童がいないか声をかける。 ・①でのりすの気持ちと、みんなで島に行くことができたときのりすの気持ちを比べることで、気持ちの変化を確認した。
	中心的な発問 **④りすさんを置いて行こうとするあひるさんたちに、アドバイスをしましょう。** ・りすさんを置いていくと、けんかの元になるかも。 ・（かめさんになりきって）りすさんを置いていくのはだめ。僕の背中に乗ればいいよ。みんなで遊んだほうがいい。 ・りすさんもいっしょに行こう。	・あひるたちにアドバイスをすることで、みんなが仲よくなるために大切なことを考えさせた。 ・りすを仲間はずれにする場面のあひるとりすを教師2人が演じ、児童にアドバイスをさせた。 ・最後に本時のテーマを振り返り、意地悪をせずにいっしょに遊ぶと仲よくなれることを改めて学級全体で確認した。